令和6年第8回松山市教育委員会定例会

(野口事務局次長)

御起立をお願いいたします。

一同礼。

御着席ください。

(教育長)

それでは、ただいまから、令和6年第8回松山市教育委員会定例会を開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

まず、本日の会議録署名人に緒方委員を指名いたします。

ここでお知らせをいたします。

本市の教育委員会では、松山市教育委員会会議規則に基づき、傍聴人に限り入室を許可できることとしています。

本日の教育委員会定例会には、28名の傍聴を許可しておりますので、ご報告いたします。

合わせて、カメラの撮影等も許可しておりますので、申し上げます。

傍聴人に申し上げます。

教育委員会の傍聴に当たっては、松山市教育委員会傍聴規則第6条で、議案・報告等案件に対して賛成あるいは反対の意見表示をしたり、会議の妨害となる行為をすることは禁じられております。

規則等に違反する場合は、松山市教育委員会傍聴規則第8条により、退場を命ずることがありますので、申し上げます。

また、規則等に基づき非公開の議決があった時は、一時的に退場していただきますことについても、あわせて申し上げます。

傍聴人の数でございますが、1人追加で29名の傍聴となっております。

それでは議事に移ります。

日程第1 議案第23号「公民館運営審議会委員の委嘱について」を議題といたします。

毛利地域振興課長から説明を求めます。

(毛利課長)

地域学習振興課でございます。

よろしくお願いいたします。

お手元の資料1・2ページをお願いします。

議案第23号「公民館運営審議会委員の委嘱について」ご説明いたします。

公民館運営審議会委員は、社会教育法第30条及び松山市公民館条例第3条と松山市公民館運営内規により公民館長の意見を聞いて、教育委員会が、委嘱することとなっています。

今回、中島公民館運営審議会委員について、すでに辞任されていた委員の後任として、忽那恵雄さんを、新たに委員を委嘱するものです。

なお、任期は、令和6年8月28日から令和7年3月31日までです。

以上で説明を終わります。

御審議のほどよろしくをお願いいたします。

(教育長)

以上で説明が終わりました。

この件に関して何か御意見等ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、特に意見等ないようでございますから採決をいたします。

議案第23号「公民館運営審議会委員の委嘱について」を原案どおり決定することについて御異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

御異議なしと認めます。

よって、議案第23号は原案どおり決定いたしました。

次に、日程第2 議案第24号「令和7年度使用中学校教科書の採択について」を議題といたします。

井上学校教育課長から説明を求めます。

(井上課長)

学校教育課井上です。

よろしくお願いいたします。

それでは、議案第24号「令和7年度使用中学校

教科書の採択について」説明をいたします。

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条及び義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律第13条に基づき、令和7年度使用中学校教科書について、本定例会で審議いただき、採択を求めるものです。

資料3ページをお願いします。

教科書は、いずれも教育基本法や学校教育法の理念や目標等を踏まえ、文部科学大臣の検定に合格したものです。

各種報告書については、調査・研究していただくために、事前にお渡しさせていただいていますが、改めて確認させていただきます。

まず、1つ目は、調査部会による報告書です。

資料作成員は、各教科において、特に優れた知見を持つ教員にお願いしました。

実際の調査では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされているか」「問題解決的な学習や体験的な学習等、多様な学習につなげることができるような工夫がされているか」などの観点について、報告書をまとめています。

2つ目は、市内の中学校において、全ての教科書について調査研究を行い、学校ごとに報告書をまとめています。

3つ目は、教科書採択に関する懇話会の報告です。

本会では、校長及び教員並びに保護者の方や、その他有識者の方が委員として集まり、全ての種目について御意見をいただき、事務局がまとめたものです。

4つ目は、教科書展示会におけるアンケート結果です。

これは、展示会場において、教科書を閲覧した一般の方からのアンケートを回収して、事務局がまとめたものです。

以上で、採択及び各種報告書についての説明を終わります。

御審議のほど、よろしくお願ひいたします。

(教育長)

それでは、採決する教科書の審議を行いたいと思います。

本日まで、それぞれの委員が実際の教科書を閲覧した他、先ほど説明がありました調査部会や学校からの報告書、懇話会の記録、教科書展示会で

のアンケートなどを参考に研究を重ねられてきたと思います。

審議の方法は、教科ごとに1件ずつ審議し、まず各委員の御意見や感想を伺い、その意見などを踏まえ、採択する教科書を採決したいと思います。

採決方法は、まず挙手による採決とし、1回目の挙手採決の結果、出席者の過半数の3票以上を取った教科書がある場合は、その教科書を採択いたします。

1回目の挙手採決の結果、過半数に満たない場合で、上位2社に絞れる場合、すなわち、採決結果が2・2・1の場合は、その2社を対象に2回目の無記名投票を行い、過半数を取った教科書を採択いたします。

1回目の挙手採決の結果、過半数に満たない場合で、上位2社に絞れない場合、すなわち、採決結果が2・1・1・1、または、全て1の場合は、得票があった教科書を対象に無記名投票をいたします。

2回目の投票で、上位2社に絞れる場合は、その2社を対象に3回目の投票を行い、過半数を取った教科書を採択いたします。

2回目の投票で、上位2社に絞れない場合は投票を繰り返し、最終的に過半数を取った教科書を採択したいと思います。このような採決方法でよろしいですか。

(一同)

異議なし

(教育長)

それでは、そのような採決方法で進めてまいりたいと思います。

それでは、議案書に書かれております、教科書の目録の記載の順序に沿って進めてまいります。

まずは、国語についてでございますが、各委員の御意見を伺っていききたいと思います。御意見ございませんでしょうか。

(緒方委員)

最初に国語なんです。国語の教科書について述べる前に、授業と教科書について若干私の考えを述べさせていただきます。

学校現場には、若手の先生からベテランの先生

までいっちゃって授業をしておりますが、学校訪問をしてみまして、教科の指導において、経験の差には関わらず、松山市は授業改善が進んでいると感じています。

一人一人の先生方が、自己研鑽に励まれているのはもちろんですが、研修センターによる学習課題を設定し、交流し、考える学習をし、学習の振り返りをするを学習の基盤としている、松山の授業モデルを、先生方が基本にして授業していることが大きいと考えます。

教科書はもちろん、教科の知識や技能を確実に身につけることが大切ですが、知識や技能を身につける過程で、思考力・判断力・表現力等も育ていけるような構成をしているかどうか重要なポイントであるとも考えます。

今回の採択の対象となる教科書も、このような授業展開を意識した教科書が多く見受けられましたが、松山市の学校で使う教科書は、松山の授業モデルが実践しやすい教科書が望ましいのではないかと思います。

さて、国語の教科書は4社ありますが、現在小学校では教育出版が使われ、中学校では光村図書が使われています。

どちらの教科書も、言葉を大切にしたい良い教科書ですので、国語については、この2社についてコメントしたいと思います。

まず、教育出版は学びが見える3つのポイントとして見通す、深める、振り返りが示されており、これは松山の授業モデルと通じるものがあります。

また、学びナビで何を学ぶか、わかりやすく本文の前に示しており、学びの見通しを重視しています。

また、松山ゆかりの人物や言葉、本などを掲載しています。

松山の学校なら、正岡子規、高浜虚子、中村草田男ら、ぜひ押さえておきたい俳人です。

また付録ではなく、読書教材として「坊っちゃん」が取り上げられています。

さらに、現在活躍している田丸さんが、1年2年で取り上げられているのも注目されます。

一方、光村図書は、主体的な課題解決、個別最適な学びに加え、対話を中心とした協働的な学びを深めるようになっており、これも松山の授業モデルと一致するところです。

また「読み方を学ぼう」は、他の教材他の領域の学習に活用でき、学びの幅が広がります。

光村図書は、ずっと読み物教材に定評があり、これが中学校で、長年支持されてきたようです。

そういう点では、若干保守的なイメージが今まででありましたが、それに加え、これからの時代に求められる資質・能力「他教科・社会生活の広がり」、「学力調査等を踏まえた学習と入学試験への対応」、「教育のICT化」などが意識された教科書になっています。

内容面でも防災教育、SDGs、キャリア教育等も充実しており、積極的に新しいものを取り入れていこうというところが見えました。

また、語彙ブックへの評価は、学校報告書を見ても評価が高かったように思います。

また、松山関係では、子規、漱石に加え、俳句甲子園から俳人として活躍している、神野紗希さんが掲載されています。

現場の方の報告書を見ましても、小学校と中学校の国語の教科書会社が異なることの問題点の指摘もないようなので、私は、現行の光村図書が良いと思います。

(教育長)

ありがとうございます。

他に御意見ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、私の意見を言わせていただきますが、私は教育出版を支持させていただきたいと考えております。

VUCA(ブーカ)の時代と言われている今日の中で、子どもたちは、やっぱり主体的に考える力っていうものをつけていく必要があるんじゃないかなと思っておりますが、これ国語科に限った話ではないと思っておるんですけども、この国語科を見たときに、教育出版さんの「学びナビ」というものが、教科書の題材の本文の前に載っているということを、ここを一番私は、重要視いたしました。

本題に入る前に、何を学ぶか、どのように学ぶかということ、子どもたちが主体的に、自分自

身で読み解いていながら、本文を学習していくと。

そういうことが、他の教科書の中での補完するいろんなツールがあったんですけども、それが本文の前にあったということが、子どもたちに対する指導上、私はベストではないのかなというふうに思っておりましたし、その点は、部会とか懇話会、学校報告においても、評価されていることだったというふうに認識をしております。

それから何と申しまして、地域教材に私自身は、各教科書こだわっておったんですが、本市ゆかりの人物の作品が、一番多く掲載されているというふうに理解をいたしました。

懇話会でもアンケートの中でも、田丸雅智さんの作品が掲載されているということについては、非常に高い評価をされている声があって、また小学校が教育出版であるということの継続をよしとするような声もあったと。

さらには、各学年で持続可能な未来をつくるためのSDGsに関する記述があることや、1年生では子どもの権利条約、2年生では子どもの言葉を通じて、障がいへの理解や多様性について学ぶこと、SNSや選挙を通じて、主権者教育について学ぶことがある。

そういったようなことを判断材料といたしまして、私は、教育出版を支持させていただきたいと思っています。

他に御意見ございませんでしょうか。

(一同)
なし

(教育長)

それでは、ないようでございますので、採決をいたしたいと思います。

議案に沿って、順番に挙手をお願いしたいと思います。まず、東京書籍の方。

—挙手0名—

(教育長)

三省堂。

—挙手0名—

(教育長)
教育出版。

—挙手1名—

(教育長)

光村図書。

—挙手4名—

(教育長)

それでは、光村図書が4票ということで、国語科につきましては、光村図書を採択することに決定をいたしました。

続きまして、書写に移りたいと思いますが、書写も4社ございますが、書写について、何か御意見ございませんか。

(田中委員)

書写も、今教育長からありましたように、4社から出版されております。

私はその中でも、光村図書版が良いのではないかなと思いました。

光村図書版では全ての教材が、「考えよう」「確かめよう」「活かそう」の3段階で示してあって、紙面構成もシンプルで、見通しを持って主体的に取り組めるような配慮がなされておりました。

また、「考えよう」の段階では、「学びのカギ」で、学びのポイントに気づくような工夫もありました。

行書は、中学校で新たに学ぶ内容で、生徒の興味関心が高いと思われます。

「『行書スイッチ』を入れよう」という表現で学んできた楷書を、行書の書き方に変えていくという構成もありまして、生徒にとっては親しみやすくわかりやすいのではないかと思います。

1年生では「びよん」「ピタ」などのオノマトペを使って、筆の運びをイメージしやすくする工夫もありました。

QRコンテンツで、行書の特徴がアニメーションで理解できたり、行書を日常で活かせるように活用のアイデアが、豊富に掲載されたりしていることも優れている点だと思います。

また、漫画で手書きの良さを考えるページがあ

ったり、著名人の署名から自分らしい文字について考えたりするようなコラムがあったりして、手本通りに書くことが難しいと感じる生徒も、書写の学習への意欲を持つことが期待できると思いました。

学校報告書で評価の高かったものが、付属の書写ブックです。

教科書で学んだことの定着を図ることができ、硬筆のワークシートとして活用したり、家庭学習にも繋げることができたりするのではないかと思います。

また、巻末には「書き初めマスターブック」があり、原寸大の手本や種々の資料が豊富に載せられておりまして、伝統的な文字文化に触れる機会となることや、主体的な学習にも繋がることを期待できます。

新聞記事のフォントやユニバーサルデザインのフォント、身近な看板などの文字など、フォントに関する内容が詳細に書かれていて、文字文化の豊かさにも気づけるのではないかと思います。

以上のことから、光村図書版が良いのではないかと考えます。

(教育長)

ありがとうございました。

他何か御意見ございませんか。

(西本委員)

私は、教育出版の教科書が良いと思いました。

まず他社と比べまして、教育出版の本はサイズが大きいのですが、書写ですので、お手本を見ながら書くことを考えますと、より見やすくていいのではないかなと思いました。

また、学習手順が明確に構成されておりまして「書く力」「学ぶ力」「活用する力」の三つの力を柱に、わかりやすく表されていると思いました。

また、別に、今を生きる中学生にとって、手書きをすることの価値を感じられるように、古代から現在に至るまでの、書くことへの変遷を扱ったコラムによって、文字文化を知ることができるということもおもしろい点だなと感じました。

さらに、カラーユニバーサルデザインを取り入れていたり、左利きの生徒への配慮もしっかりされておりまして、全ての生徒にとって学びやす

くなっていると思いました。

以上の理由で、私は教育出版を選びました。

(教育長)

ありがとうございました。

他にないですか。

(一同)

なし

(教育長)

また意見を言わせていただきますが、私は東京書籍を支持したいと思います。

書写の基本的な事柄を、1年生から教える工夫が、書写のかぎとして掲載されておりまして、単元学習で一番大事なことを、一目でわかるように示し、文字を整えて書くための知識とかコツを、言葉で整理している点を評価いたしました。

QRコードでは、毛筆動画や国語への関連ページがあること、書写テストでは、CBT対応できることも評価の点といたしました。

部会の意見として、単元の内容や目標が明示され、生徒が学習の中で覚えて、理解しやすい工夫があることとか、写真や挿絵が多く親しみやすい構成となっていることを評価しているとか、懇話会では、書写活用ブックの手紙やポスターは、社会で実際に役立つような題材があって、生徒の興味関心を引く、また、学校報告の中でですね、特に特別支援教育の観点からの配慮や、左利きの生徒への配慮があることが挙げられておりまして、書写活用ブックでは、様々な書式の例示があって、実際の生活に役立つことができるというふうなことの記載がありましたので、私は東京書籍を支持させていただきたいと思っております。

他に御意見ありませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、ないようでございますので、採決をいたしたいと思いますが、この目録にある順番でまいります。

まず、東京書籍が良いと思われる方。

—挙手 1 名—

(教育長)
三省堂。

—挙手 0 名—

(教育長)
教育出版。

—挙手 2 名—

(教育長)
光村図書。

—挙手 2 名—

(教育長)

それでは、採決の結果、教育出版が 2 票、光村図書出版が 2 票、東京書籍が 1 票となりましたので、読み上げました 3 社いずれも、過半数を超える得票とはなりませんので、無記名による投票を行いたいと思います。

事務局の方、投票用紙の配布をお願いします。

確認ですが、この教科の出版社は 4 つありますが、先ほど、3 社の投票のうちの上位 2 社ですから、教育出版と光村図書で、無記名による投票をお願いいたします。

(投票用紙に記入)

(投票用紙を回収)

(教育長)

それでは、回収が終わりましたので、緒方委員さん立会をお願いいたします。

(集計)

(教育長)

集計結果を報告いたします。

教育出版が 3 票、光村図書出版が 2 票となりましたので、したがって、書写の教科書につきましては、教育出版と決定をいたしました。

続きまして、目録 3 つ目の、社会地理的分野に

ついて進めたいと思います。

地理的分野について、何か御意見等ございましたら。

(河原委員)

地理的分野なんですけど、地理的分野は歴史的分野と違って独特の難しさがあるように思います。

歴史的分野は、一国の歴史は特にそうですが、年表で表されるように、一本の時間軸上にさまざま出来事を並べるようなイメージで直感的に理解しやすいところがあります。

しかし、地理的分野は、歴史が時間を扱うように、空間的な広がりを持つものとして、単純にイメージできるかというところはなかなかないと思います。

地域ごとの特徴を、色を塗り分けるように把握すればすむかという、その特徴に多くの観点が入り込むため、情報の整理が難しい分野だと思います。

ですので、情報の整理と各地域の理解にどのような工夫をしているのか、さらにそれを現代的な課題に結びつけ、生徒に考察を促す仕掛けがどこまでできているかという観点で各社の教科書を比較してみました。

結論から言いますと、全社のもを通して一番上手に情報を整理し、また内容も的確だと思えたのが帝国書院のものでした。

どの地域もおおむね、地球上の位置・広がりや地形、気候の特徴、文化・歴史的な背景、主力産業、地域が抱える課題の順序で情報が整理されています。

しかも、それらがひとつの全体像に収斂するように、的確にトピックスを取りあげ、現代の課題に結びつけられている印象です。

各章末には「学習を振り返ろう」というコーナーが用意されています。

記入式の図や表とともに、課題が提示されていますが、学習内容をまとめるだけでなく、その地域の全体像を再確認できるようになっています。

たとえば、ヨーロッパ州の章では、地球上の位置や地形、気候を踏まえたあと、ヨーロッパに広がるキリスト教文化を取りあげています。

そこから EU 統合、EU 統合による農業・工業の発展等と進み、最後は EU 内の経済格差という現代の

課題で終わります。

章末の「学習を振り返ろう」に記載されていた記入式の表を完成させると、ヨーロッパがキリスト教という共通基盤を土台にEU統合を果たし、統合による発展とともに課題が生じているという全体像を再確認できます。

他の章でも同様です。

特に、アフリカ州の「学習を振り返ろう」のところに掲載された図は、文化・歴史的背景も含めて、一目でアフリカ州の全体像を俯瞰でき、秀逸です。

どの地域もこの調子で学習していくことができます。

この教科書による学習を通して、ひとつの地域を知り、その地域の特徴を理解し、その地域に固有の課題を発見し、その地域の全体像を描くには、どのような手順で情報を整理していけばよいか、生徒は自ずと学んでいくはずで

す。情報が氾濫する社会の中で、的確に情報を整理する力や思考力、学びの主体性が求められている今日、帝国書院の地理的分野の教科書はその意味でも良い手本になるように思いました。

以上、私は地理的分野の教科書として帝国書院のものを推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんですか。

(田中委員)

4社から出版されていて、比較しながら読んでみました。

どの教科書も充実した学びが行えるように、「地理的な見方や考え方」についての解説や、豊富な資料の掲載、SDGsなどの現代的な課題への対応、それから随所に配置されたQRコンテンツなど、それぞれに工夫が見られました。

その中でも、私は東京書籍の教科書が良いのではないかと思います。

まず、「問い」を柱に、課題解決的な学習が組み立てられていることです。

大きな章や節を貫く、探究課題の追究の流れに1時間1時間の学習課題の追究が、うまく組み合わせられ、探究課題の解決がスムーズに行われるようになっています。

探究課題の設定場面では、写真や様々な資料が掲載されており、課題設定を大切にしているということが見てとれます。

生徒自身が自ら課題を設定することで、動機づけや学習の方向づけが行えるよう配慮されていました。

また、主体的に学ぶためには、学習の見通しを持つということは欠かせないことですが、東京書籍版では、単元の見通しを持たせるコーナーが付けられておりました。

1時間ごとの学習内容がわかりやすく並べて示され、探究課題を想起させたり、まとめの活動への意欲を高めたりする言葉が書かれています。

学習の目的意識や必要性を持続させるために、効果的だと思いました。

学校報告書で、現場の先生方から、東京書籍版での課題解決の流れについて、生徒の思考の流れに沿っていると、評価する意見が多く上がっておりました。

また、1時間ごとの「チェック&トライ」というまとめと振り返りの活動も評価されておりました。

これは、QRコードからアクセスでき、チェックは本文から抜き出し、トライは自分の言葉で説明をします。

入力した回答は、画像として保存でき、単元のまとめなどでも活用できます。

まとめの場面でも、思考ツールや表などを用いて探究課題の答えを深めたり、「みんなでチャレンジ」という対話的な活動を通して、その答えを調整したりするなど、主体的対話的で深い学びに繋がるのではと感じました。

どの教科書でも最後に、持続可能な地域のあり方を探究する、まとめの単元が設定されています。

中学校での地理的分野の集大成としての取り組みです。

学習を進める例として、東京書籍版は広島市を取り上げておりました。

広島市は、小学校の修学旅行で行くことが多いと思いますので、興味を持って取り組むことができるのではないかと思います。

以上のことから、東京書籍版が良いと考えます。

(教育長)

ありがとうございました。
他御意見ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

私は、日本文教出版を推薦したいと思います。

それぞれ各教科書ともに主体的対話的で深い学びを実現するための工夫がなされておりまして、構成する章や単元の取り組みツールには大差はないなというふうには感じておりましたが、そういった中で、私独自として何点かの項目について、比較検討させていただきましたが、まずその中で、SDGsとQRコンテンツにつきましては、各社とも工夫があつてそれほどの差はなかったなと思っております。

次に、地理の科目としての領土問題についてを検討いたしました。指導要領にある領土問題は存在しないという表記は、1社を除いて全て記載されておりましたが、中でも日本文教出版は竹島、尖閣諸島の位置関係が一番わかりやすく、また、北方領土の変遷が時系列で、わかりやすく掲載されていたことを評価いたしました。

次に、中四国地方についての記載でございますが、中四国地方の記載の中で、愛媛関連の題材にしたものは、帝国書院さんが一番多かったなというふうに思っておったんですが、日本文教出版さんは東京書籍さんと同じ数の題材を掲載しているわけなんです。日本文教出版さんは、なんと申しまして、四国新幹線構想、これの記述が唯一されておりまして、この点は懇話会や学校報告でも取り上げておりまして、これからの松山・愛媛を担う子どもたちに、将来の松山・愛媛の姿を描いていただく好材料であるのではないかなというふうに思いました。

また、懇話会の中では地理的な見方・考え方について一番丁寧に解説しているのは、日本文教出版であるという御意見もあったことも評価の材料といたしまして、以上のことから、私は日本文教出版を推薦したいと思っております。

他ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、ないようでございますので、多数決、挙手で伺いたいと思います。

東京書籍の方。

—挙手3名—

(教育長)

教育出版。

—挙手0名—

(教育長)

帝国書院。

—挙手1名—

(教育長)

日本文教出版。

—挙手1名—

(教育長)

それでは結果として、東京書籍さんが3票、帝国書院さんが1票、日本文教出版さんが1票ということで、地理的分野につきましては、東京書籍に決定をいたします

続きまして、同じく社会の歴史的分野について進めます。

歴史的分野について何か御意見ございませんか。

(緒方委員)

歴史の教科書は9社の教科書がありました。

教材の取り扱いについては、特色のある教科書もあり、全般的には、内容が充実しておりました。

そして、最近の教科書はカラーの写真やイラストは大変豊富ですが、今回は白黒のシンプルな紙面構成の教科書も見受けられました。

その一方、GIGAスクール構想という点では一部の教科書には、充実の度合いに差があるように思いました。

そのような中、ほとんどの教科書において学習課題が提示され、その課題を解決するように構成されていました。

その学習課題に対しての学習の進め方は様々なものがありますが、東京書籍、教育出版、帝国書院は説明をさせるというようなやり方で、思考表現が深められ、最後には振り返りができるようになっていました。

松山の授業モデルに即した授業展開ができる教科書であろうと思います。

その3社の中でも東京書籍は学習課題が大きく掲げられており、教師生徒とともに学習課題を意識しながら授業が進められます。

さらに、チェック&トライで学習が確認でき、ポイントをまとめることもできます。

章末には思考ツールを用いたまとめの機会が設けられており、主体的な学びが期待できます。

また、小学校の学習内容の復習が充実しており、小中の接続もスムーズにできます。

QRコードについては、検定の対象ではなく教材扱いということは承知しておりますが、東京書籍はQRコードが充実しており、教師が授業の幅を広げたり、生徒が歴史に興味関心を持ったりすることができ、GIGAスクール構想に資する教科書でもあります。

総じて歴史の基本が身につく、今後の発展ができる教科書であることから、私は東京書籍がよいと思います。

(教育長)

他に御意見ないですか。

(河原委員)

歴史の学習について学習指導要領を参照しますと、歴史的分野の学習目標の第1に、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解することが挙げられています。日本史はともすると、一国だけの歴史のように閉じたものとして捉えられる傾向があるのでそういった歴史理解を防ぐために、設定された目標だと思います。

この点で、各社の教科書がどのような工夫を織り込んでいるのかを比べてみました。

まず、小タイトルの付け方に着目しますと、帝国書院のものは古代国家の成立と東アジア、武家

政権の成長と東アジア、武家政権の展開と世界の動き。

このように、どの時代も対外的な関係が背景にあることを意識するように強調されています。

同じ箇所が、他社のものだと、古代までの日本と世界、中世の日本と世界、近代の日本と世界のように抽象的なタイトルですので、帝国書院のものは一歩踏み込んでいる印象です。

帝国書院のものは、章タイトルだけでなく、内容面でも踏み込んだ工夫が施されていました。要所要所に「世界とのつながりを考えよう」というコーナーが配置されています。そこでは、世界地図とともに日本と外国との具体的な文物・物資の交流がわかりやすく示されているだけでなく、世界地図上で、どのような人や物の移動、国同士の交流や争いが生じたのかを確認する問いも用意されており、日本と世界とがひとつの大きな歴史のうねりのなかに存在することを意識させる工夫が施されています。

次に、学習指導要領にある第二、第三の学習目標を参照しますと、「歴史に関わる事象の意味や意義等を多面的・多角的に考察することや、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度の涵養」が挙げられています。

この点でも、各社の工夫を比較してみました。

山川出版社以外のものは、章末に、日本と世界の動きを融合した年表が掲載され、生徒が両者の情報を上手に整理できるように配慮されていました。

帝国書院のものは、年表を縦向きに配置しているのですが、視線の移動が小さいため、他よりも見やすく頭に入りやすい印象でした。

また、教育出版のものは、年表とは別に地図上で、その時代の重要地域を詳細に再確認できる工夫が施されていました。

考察を深めるという意味では、日本文教出版、東京書籍、帝国書院のものは、章末の振り返りのところで、節ごとの内容を再確認し、そのうえで最終的にその章全体の歴史的意義を導き出すという仕掛けが組み込まれていました。

特に、東京書籍のものは節ごとの内容を細かく確認できるところ、帝国書院のものは節ごとの問いが、参照すべき本文ページ番号と紐つけられているところに、それぞれ特徴がありました。

さらに、帝国書院のものでは、章末の振り返りのところに、「現代とのつながりを考えよう」、「SDGs とのつながりを考えよう」という問いが用意されており、歴史理解を現代の考察に結びつけることを促す、非常に重要な工夫がなされていました。

以上を総合的に勘案すると、各社それぞれ工夫を凝らしてはいるものの、帝国書院のものが一歩抜きに出ており、中学生が歴史を学ぶ教科書として、最も相応しいと評価しました。

(教育長)

ありがとうございました。

他御意見ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

私なんです、先ほどのお二人の御意見と同様に、それぞれ各教科書会社が、特色を生かした構成で作られているんだということで、それぞれの工夫されたものというふうなことの評価をしておりましたが、その中でもですね、私自身は日頃から子どもたちに対して、ふるさと教育を推進している立場でございます。

少子高齢化が進む中で、21世紀に松山が生き残っていくためには、子どもたちにいかに松山に残ってもらうか、そのためには、松山を愛してもらうかということで、ふるさと教育という観点を常に私は持っておりますが、そういった観点で見たときにですね、育鵬社さんの松山に関する教材の多さ、秋山兄弟、それからロシア人墓地、子規とか漱石、そういったようなことの教材が非常に多く載ってあるということについては、非常に魅力を感じました。

しかしながら、懇話会とか部会の中での御意見でもあったんですが、やはり学習指導要領に沿った教科書の中で、現状としては、教科書を読んで知識・理解を深め、基本的な技能を身につけるということだけではなく、考えたり話したりするという活動を積極的に取り入れ、表現力を深める、そういった趣旨に沿った教科書っていうのは、帝国、東京、日本文教という3社ではないかという御意見があったと。

それから、学校報告では、帝国書院さんが、生徒が一番理解しやすい、わかりやすい、活用しやすいっていう声が一番多かったこと、全体的に色使いが綺麗で見やすいことという声があったということでした。

私自身としては、育鵬社さんが、そういったふるさと教育を進めるための教材として非常にいいものだなと思ったんですが、やはり、現場の方々が進めていく上の中では、帝国、東京、日本文教という3社の中からの選択というように考え、総合的に判断した結果、私も東京書籍を推薦したいなというふうに思っております。

他に御意見はないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは採決をいたします。

順番にいきますが、東京書籍を薦められる方。

—挙手4名—

(教育長)

帝国書院。

—挙手1名—

(教育長)

それでは、採決の結果、東京書籍が4票、それから帝国書院さんが1票ということで、東京書籍に決定をいたしました。

続きまして社会の公民的分野に進みます。

公民的分野についてですが、御意見ございますか。

(西本委員)

私は、公民的分野の教科書に東京書籍さんを選びました。

まず構成も他社と比べても1単位時間の学習内容が見開き2ページにまとめられておりまして授業以外でも、例えば家庭学習でも生徒が予習や振り返りをしやすい構成になっておるのではないかなと感じました。

また、単元を貫く探究課題の設定がしやすくな

るように、導きがスムーズで、単元の学習の見通しを持つことができ、課題解決まで学習の流れが見える化できるように見やすく感じました。

写真や資料なんかも新しいものが使われていると、また QRコードに対しても資料が充実しているという懇話会の意見も見ましたので、より身近な課題として子供たちが深い学びができるような工夫がたくさんされておるのではないかなと感じました。

また、18歳へのステップというコラムがありまして、社会に参画する態度を養うために具体的な場面から、憲法や政治経済などを捉えることができ、主権者意識、消費者意識の醸成を促す内容となっており、成人となるための責任について学べる良い内容であったと思いました。

以上の理由で私は東京書籍を選びました。

(教育長)

他に御意見ございませんか。

(緒方委員)

公民は6社の教科書がありました。

歴史の教科書と同様に多くの教科書会社が学習課題を提示してそれを解決していくように作られていました。その中でも日本文教は指導と評価に基づいた教科書ということ掲げて、教科書を作っていました。

問いが構造化されており、教科書の問いに沿って授業を進めていくことで、主体的、対話的で深い学びの実現ができるので、生徒にとっても教師にとっても使いやすい教科書だと思われれます。

また、抽象的な事象を具体的にイメージできるイラストが効果的に使用されており、生徒が理解を深めるのに有効という指摘もありました。

学校からは、読み仮名が振ってあり、誰でも学習に取り組みやすい、また本文の叙述が平易でわかりやすいという報告があり、堅いイメージのある公民の授業に取り組みやすくする配慮がなされていると思います。

また、QRコンテンツについては、表題の横のQRコードを読み込むと、その見開きのページにあるコンテンツを参照することができ、生徒が公民に対して興味を持って取り組むことができるなど、充実しております。

以上のことから公民は、私は日本文教が良いと

思います。

(教育長)

他にないですか。

(一同)

なし

(教育長)

私は、公民分野は教育出版を支持したいと思います。

公民分野についても、それぞれ各教科書とも大差はないなというふうに感じたんですけども、教育出版さんは、松山の授業モデルで示しているような、学習の課題今日の課題が何かということを示す中で、課題の示し方の表記の仕方というのが一番視覚的によくわかる表記の仕方であったなと。

また、文中のゴシック表記についても、大事なところがよくわかるような感じを受けました。

また、学校報告から生徒の興味関心を喚起させる公民の窓や、掲載されている統計資料が最新のものが多いうふうなことも、そういう材料とさせていただきます。

地元教材として、育鵬社さんが坂の上の雲ミュージアム、日本文教出版さんが道後温泉を教材として取り扱っているっていうことは、非常に関心があったわけなんですけど、教育出版さんも地方自治体の庁舎として、愛媛県庁や県主催のいじめ防止について話し合う小・中学生について掲載されておりまして、良いかなというふうなことで、総合的な判断の中、私は教育出版を推薦したいと思います。

他に御意見はありませんか。

(一同)

なし

(教育長)

ないようでございますので、採決をしたいと思えます。

まず、東京書籍を推薦される方。

—挙手2名—

(教育長)
教育出版。

—挙手 1 名—

(教育長)
日本文教出版。

—挙手 2 名—

(教育長)
東京書籍が 2 票、教育出版が 1 票、日本文教出版が 2 票ということによろしいですか。

そうしましたら、分かれましたので、無記名による投票を行いたいと思います。

(投票用紙に記入)

(教育長)
それでは、記入できましたでしょうか。
では、回収をお願いします。

(投票用紙を回収)

(教育長)
西本委員さん立会をお願いいたします。

(集計)

(教育長)
集計の結果を報告いたします。
日本文教出版 3 票、東京書籍 2 票、したがって、公民的分野は日本文教出版と決定いたしました。

続きまして、地図に移りたいと思います。
地図は教科書会社 2 社でございますが、これについて御意見ございますか。

(田中委員)
地図は、東京書籍と帝国書院の 2 社が出版していますが、私は帝国書院版が良いのではないかと思います。

地図には多くの情報が組み込まれているので、見やすいか、読み取りやすいかが大きなポイントです。

色合いの面で、東京書籍版はやや落ち着いた色調ですが、帝国書院版は全体的に明るい色使いとなっています。

同じ地域の地図を比べてみましたが、帝国書院版が見やすく、地形の特色も掴みやすいと思いました。

使用している色だけでなく、書体や文字の配置にもよるものだと思います。

見やすさについては、各学校からの報告書でも、帝国書院版を評価する意見があがってありました。

全体を通して、各ページのレイアウトが統一されていることにも、使いやすさが表れていると思います。

各地図それぞれのタイトルやページ番号、インデックスの位置が固定され、またその表し方も非常にわかりやすくなっています。

誰もが見やすいようにという配慮が感じられました。

地図で考える持続可能な社会と題して、7 ページにわたり、地図帳を通して SDG s を考えることについて取り上げています。これは、今回新設されたものです。

他にも SDG s について考察できる資料が豊富に掲載され、特に自然災害、防災に関する資料が充実していると感じました。

南海トラフの巨大地震や線状降水帯なども新しく加えられ、理科など他教科と関連した指導や防災学習など、教科横断的な学習にも役立つものと思いました。

さらに、歴史や公民、修学旅行など多目的に活用できる地図が多く、その場所はマークが付けられていてわかりやすくなっています。

その中でも、瀬戸内海周辺の歴史という地図があったのですが、古代から近世までの貿易や外交、争乱など地形との関わりから考えることができ、非常に興味深いものでした。歴史の学習に生かすことができると思います。

表紙には、しまなみ海道の写真が使われていること、愛媛県に関する資料も複数掲載されていること、それとこれは大事なことなのですけれども、3 年間の使用、3 年間以上かもしれませんが、長い使用に耐えられるよう、丈夫な製本仕様がなされていることなども評価できると思います。

以上のことから、帝国書院の地図帳が適切なのではないかと考えました。

(教育長)

他に御意見ございませんか。

では、意見もないようでございますから、採決をしたいと思いますが、発言がございました、帝国書院を支持される方、挙手をお願いいたします。

—挙手5名—

(教育長)

ありがとうございました。

では、帝国書院5票ということで、地図につきましては帝国書院に決定をいたしました。

続きまして、数学に移りたいと思います。数学は7社でございますが、御意見等ございませんでしょうか。

(河原委員)

数学について、学習指導要領の目標を参照しますと、第1の目標として「事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けるようにする」とあります。

数学においては、授業で学ぶ抽象的な概念が、日常生活の具体的な事柄と結び付けにくいことが想定され、それをいかに埋めることができるかという点が、教科書選定においても重要であると考えられます。

日本文教出版、数研出版などほとんどの教科書には、章の頭に同様の導入箇所がありますが、啓林館と教育出版、学校図書のものには、章の冒頭だけでなく、節の冒頭にも関連する日常的事象が提示されており、さらに啓林館と教育出版のものは、その事象について話し合いを行うように促されています。

これは、日常生活や社会の事象を数学的に捉えるための導入として優れた工夫だと思いました。

第2の目標である、「数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力」や、「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力」について、教科書冒頭での解説にとどまっている教科書もありますが、日本文教出版のものは、本文内のラベル、啓林館のものは標

識、学校図書のものは垂直タブを本文内に設けることで、数学的な見方・考え方を身につけやすくなるように工夫されています。

第3の目標である、「問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うこと」については、東京書籍、教育出版、日本文教出版、啓林館、学校図書、大日本図書のものは、いずれも教科書冒頭に学び方についての言及がありますが、特に啓林館のものは「身の回りの場面を起点として状況を整理して問題を設定する」ステップ1、「解決の見通しを立てて、問題を解決する」ステップ2、「問題解決の過程を振り返り、気づいたことやもっと調べてみたいことを話し合う」ステップ3を経て、最後に身の回りの場面に戻るとして、単元ごとの学習がわかりやすくパターン化されています。

学習過程を順序立てて数字で示しているのは啓林館のみでした。

デジタル活用について、東京書籍、教育出版、日本文教出版、啓林館、学校図書の教科書については、随所にQRコードが配置されており、デジタルコンテンツにアクセスしやすくなっています。

特に、啓林館と学校図書のものは、考え方が見えるのか、正答が見れるのか、別の回答を確認できるのかなど、どのような目的でデジタルコンテンツを利用できるのかが、わかりやすく示されています。

以上、いくつかの観点で比較してきましたが、学習指導要領の目標に効果的である点、生徒が数学的活動の楽しさや数学のよさを実感しながら学習を進められるという点で、私は啓林館の教科書を推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

私は、東京書籍を推薦したいと思います。

数学の教科書を見る上で、小学校の算数から中学校の数学へと生徒がスムーズに移行できるかど

うか、その点をまず見てみたんですけども、1年生の最初の単元である数と式のところですが、正の数・負の数に入る前に自然数、素数、素因数分解といった小学校での学びの振り返りがあったのが、東京書籍を含む3社で、数学の苦手意識を最初に意識しないためにも、この振り返りってというのは、大切なものではないのかなと思いました。

また、東京書籍さんについては、1次方程式とか図形についても、導入部分が一番わかりやすいなというふうに感じました。

学校や部会報告の中にも、他社で顕著でありました生活体験に即した題材について、生徒が興味関心を持つだけでなく、見通しを持った学習ができる工夫があると評価しており、懇話会でも構成がわかりやすく指導しやすいとの報告があったことも評価の材料とし、私は東京書籍を推薦したいなというふうに思っております。

他にないですか。

(一同)

なし

(教育長)

では、採決をいたします。

まずは、順番にいきますが東京書籍の方。

—挙手1名—

(教育長)

大日本図書。

—挙手0名—

(教育長)

学校図書。

—挙手0名—

(教育長)

教育出版。

—挙手0名—

(教育長)

啓林館。

—挙手4名—

(教育長)

それでは、啓林館が4票、東京書籍が1票ということで、数学については啓林館で決定をいたします。

続きまして、理科でございます。5社ございますが、御意見をお願いいたします。

(西本委員)

私は、理科の教科書を教育出版が良いと選びました。

まず構成ですが、他社と比べて比較的シンプルな紙面になっておりますが、そのために見やすく、内容ごとに読み進めやすい配置になっていと感じました。

また、大事な項目は色分けのフォントで示されておりまして、ぱっと見て大事なポイントをつかめるような内容になっておりました。

また、文字だけではなくて、図や写真、特に実験についてのところでは、大きく豊富に掲載されていまして、見ただけで興味を引き出すような工夫が随所に見られたと思いました。

また、巻頭ページに見開きの探究の進め方というページがありまして、そちらが各章の問題解決の効果的な手引きとなっているページだったんですが、そのページを開きながらも、各章のページを同時に開くことができ、問題解決のためにつまづいたとき、要所所で効果的に効いてくるような紙面構成となっていると感じました。

また、読み物資料としまして、SDGsの各目標が記載されておりまして、理科の学習を通して、現代社会への課題の取り組みへスムーズに導かれる工夫がされていると感じました。

以上の理由で、私は教育出版が良いと思いました。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんか。

(田中委員)

私は、東京書籍版が良いのではないかと思います。

まず、東京書籍版で驚かされたのは、単元の初めの扉の写真です。

写真が見開きで、とてもダイナミックに掲載されておりました。

現在使用している、東京書籍版はA4版に近い縦長なのですが、今回のものは縦を短くして横広にして、AB版というものになりました。

全体的に写真や図の資料が大きくなり、何を学ぶのかがはっきり伝わるので、生徒の思考や学習意欲を高めることができると思いました。

学校報告書でも、この点を評価する意見が多く挙がっておりました。

次に、単元の初めのページには、二つのQRコードが掲載されています。

一つはスタート動画で、これからの学習の方向づけを行い、学びの意欲を高めるものでした。

もう一つは、ビフォーアフターという形で名付けられており、単元を貫く大きな問いに対する学習をする前の現時点の自分の考えを書き込むもの、そして単元の終わりで、同じ問いに答えて、考えの変容に気づくというものです。

見方や考え方が深まったことに自ら気づくことで、自己肯定感も高まります。

理科の学習への意欲が、さらに高まるのではないかと思います。

また、授業の見通しを立てやすい構成になっていることも良いと思いました。

探究活動では、課題発見から仮説、そして構想実験をして分析解釈など、ステップを踏んで探究をしていきます。

それをアイコンで示したり、フローチャートで表したりして、全体の中でどの探究段階なのかを自覚できるように配慮されておりました。

さらに、見開きで1時間の構成になっているので、生徒も指導する側も見通しが立てやすくなっています。

ページの構成では、観察や実験の内容が確認しやすいようページの上から実験の目的、方法、結果、考察を縦に並べてあります。

そして、結果や考察を、必ず次のページに来るような配慮もありました。

読み物も多数掲載され、「まちなか科学」や「社会につながる」というコラムで、身近な自然や生活との関わりに気づけたり、科学誌を漫画で描いた「歴史にアクセス」では、科学の面白さに

触れたりできるようにもなっております。

以上のようなことから、東京書籍版が良いのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見がないようでございますので採決をいたします。

まず、東京書籍を推薦される方。

—挙手4名—

(教育長)

教育出版。

—挙手1名—

(教育長)

それでは、東京書籍4票、教育出版1票ということで、理科については東京書籍に決定をいたしました。

続きまして、音楽に移りますが、音楽一般でございます。御意見等ございませんか。

(緒方委員)

音楽一般は、教育出版、教育芸術社の2社です。

どちらの教科書も、主体的、対話的で深い学びに対する手立てがあり、現在の教育に求められている大切な点が、しっかり押さえられている教科書だと思いますが、特に教育出版は、「F楽しい」「L学び」「Yエール・応援」という教科書の一貫した製作の意図を感じます。

教育出版は共通事項を軸にして、学習をバランスよく見通せる学習マップが各学年に付いており、生徒にとって学習の全体像・流れが見える教科書です。

また歌唱教材は、歌詞のイメージを大切にし、それに即した写真を掲載しております。

歌唱曲ほどの教材も美しい写真資料が効果的に使われていて、視覚的にも魅力的な教科書です。

さらに、創作は音のスケッチというタイトルで表現や鑑賞の学習の関連が図られ、無理なく学習できる内容になっている上に、QRコードも充実しており、ICTを活用した授業ができます。

教科書の紙の質は書き込みやすいものであり、生徒が気づいたことや、教師の助言が書き込めるよう配慮されており、使いやすく、そして、使いこなせていける教科書です。

以上のことから、音楽一般は教育出版が良いと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

私は、2社のうちの、もう一つの教育芸術社を推薦したいと思います。

特に2社に差はないかなと思っているんですが、何と申しましても、各冊子の表紙裏、特に1年の裏にあります、上白石萌音さんの写真というのは、生徒の心をつかむのではないのかなということを思いました。

表紙裏で授業をするわけではないと思うんですが、最初が肝心ということで、そういうふうにしたわけなんです、学習内容も歌唱と創作を合わせた表現、それから鑑賞に分けられておられまして指導要領に沿った学習が進められるのではないかなというふうに思いました。

調査部会では主体的に何を学ぶか意識できるように、見出しや活動内容が示されていること、学習活動のポイントが、問いかけで示され自主的に学んだり、体験的に学習できるってことを評価していることとか、懇話会でも上白石萌音さんや野口聡一さんを使うことで、生徒の心を掴んでいるということでの評価をしておりました。

アンケートの保護者の声というのは、少し気にはなったんですが、二者択一ということで、総合的に判断して教育芸術社がいいかなと思いました。

それでは、他にないようでございますので採決をいたします。

教育出版が良いと思われる方。

—挙手4名—

(教育長)

教育芸術社。

—挙手1名—

(教育長)

教育出版社が4票、教育芸術社が1票ということで、音楽一般は教育出版を採択することに決定をいたしました。

続きまして、同じく音楽の器楽合奏に移りたいと思います。御意見をお願いいたします。

(緒方委員)

音楽の器楽合奏は、一般と同様に、教育出版、教育芸術社の2社でした。

様々な楽器がある中で、中学校で一番学習に使われる楽器はアルトリコーダーですが、どちらの教科書会社もリコーダーの学習には工夫を凝らしていました。

教育芸術は、生徒がつまずくところを学べる技能のポイントが示されており、リコーダーが苦手な生徒への配慮があります。

教育出版は、アルトリコーダーの指使いに加え、小学校で学んだソプラノリコーダーの指使いも掲載され、ソプラノリコーダーからアルトリコーダーにスムーズに移行できる工夫がなされています。

どちらの教科書も、生徒主体に作られていることが伺えます。

学校によって、器楽の備品の種類、数には差があるのが現実ですが、教育出版は三味線、篠笛、尺八などの和楽器から、西欧でよく使われる楽器まで、様々な楽器が学習できるように工夫されており、各学校の備品の実態に合わせた授業が可能になります。

また、教育出版は基礎練習曲、まとめる曲の順に掲載し、習得した知識や技能を活かして表現するまとめの曲に到達するように工夫されていますので、この学習過程の中で主体的・対話的な学習

を進めることができます。

以上のことから、私は器楽も教育出版が良いと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他にありませんか。

(一同)

なし

(教育長)

音楽の器楽合奏ですが、これは私も先ほどの一般との関連ではないんですが、教育芸術社を推薦したいなと思いました。

生徒が知っていると思われる曲が多く使用されていることとかですね、懇話会ではプロの演奏家のインタビューとかメッセージで、興味を引く構成等をしていること。部会では、基礎的な演奏方法が理解できるような教材の構成が、わかりやすく工夫されていることなどが評価されておりまして、音楽一般との関連も考慮しながら、教育芸術社を推薦することといたしました。

他にありませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、ないようでございますので採決をいたします。

教育出版に賛成の方。

一挙手4名一

(教育長)

教育出版が4票で、音楽の器楽合奏は、教育出版に決定いたしました。

続きまして、美術に移りたいと思います。

美術について何か御意見ございませんでしょうか。

(西本委員)

美術は3社ございますが、私はその中で開隆堂の教科書を選びました。

3社で比べまして、まず一番の特筆すべき点は表紙の手触りがザラザラとして特徴的でした。

この面白い質感に、まだ授業の前から芸術の世界の入口に立ったようなわくわく感を感じることができるのかなと思ひまして、おもしろい点だなと思ひました。

また、中身の構成に関しましても、作品を大変大きく掲載されておりまして、作品の大きさを肌感で感じることができるのかなと思ひましたし、また、作品の特徴を細部表現としてしっかり見ることができる工夫が随所にされておりまして。

また、その題材の知識や技能、使われております芸術の技能、またはその作者の言葉など題材の共通事項に関連した具体的なことがたくさん掲載されておりまして、読み進める教科書としても大変楽しく読ませていただきました。

また、色彩のページがありましたが、今までは赤色ベースだったページを、黄色ベースに変えることによりまして、色覚に不自由のある生徒にとっても使いやすいページとなっております。

美術というのは、やはりあの作品を通じて感じる感性というものを大切にしていくものであるかなと思ひましたので子どもたちにとっても親しみのある作品が多くて、またそれがダイナミックに見やすく掲載されているこの開隆堂の教科書が良いのではないかなと感じました。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんでしょうか。

(河原委員)

美術は、創造性や豊かな感性を育み、次世代に芸術文化の価値を伝えていく上で大切な科目だと思います。日頃から美術館に足繁く通う中学生はあまり多くないと思いますので、美術作品や美術表現に対する興味・関心を引く工夫が大きな課題のひとつだと思います。

そういったところを意識しながら、特に、各社の特徴が出やすい2・3年用の教科書を中心に、光村図書、開隆堂、日本文教出版の教科書に目を通してみました。

まず紙面で鑑賞できる作品の種類に着目してみました。

開隆堂のものは、法隆寺壁画、水墨画、琳派、浮世絵、絵巻物、仏像、正倉院、各地の伝統工芸等、非常に多くの伝統的な日本美術を扱っているところに特色がありました。

各ページにはQRコードが掲載されており、解説動画、生徒作品、360度写真等のコンテンツが閲覧できるようになっていました。

光村図書のものは、ダ・ヴィンチ、シャガール、ダリ、ゴッホ、ピカソ等の古典的な西洋美術作品を軸にしなが、内部に「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」という小冊子をはさみ、水墨画や日本画、屏風絵等の日本の古典的な美術作品も鑑賞できるようになっていました。

QRコードで閲覧できるコンテンツは、解説動画、生徒作品が主ですが、一部の作品については、体感ミュージアムという名称で、高精細画像、関連作品、操作可能な360度写真、鑑賞用のキーワード集まで閲覧できるようになっており、バーチャルですが、美術作品を間近に鑑賞できるという意味で効果的なコンテンツだと思いました。

日本文教出版のものは、国内外の古典的な作品を紹介してはいるものの、おおむね現代的な美術作品が中心となっている印象でした。

QRコードで閲覧できるコンテンツは、解説動画だけでした。

生徒の興味・関心を引くという意味で、さまざまな作品を取り上げバリエーションを豊富にすること、多彩なデジタルデータで作品鑑賞できることは効果的だと思います。

その点、光村図書のものが国内外のさまざまな古典美術作品に触れられるという点、デジタルコンテンツが充実している点でもっとも優れているように思いました。

次に、生徒に作品制作を促すための工夫に着目してみました。

開隆堂のものは、単元ごとに複数の生徒作品や制作技法の写真入り解説を掲載していました。

光村のものも同様でしたが、複数の生徒作品とともに、その作品の制作過程を写真入りで説明していました。

紹介された作品そのものの制作過程がわかるという意味で、生徒にとっては手本にしやすいメリットがあると思いました。

日本文教出版のものは、単元ごとに小さなコラ

ムを掲載していましたが、具体的な表現技法というよりもやや抽象的な「ヒント」にとどまる印象でした。

以上各社のものを比較した結果、美術作品や美術表現の魅力を伝えやすいという観点から、私は光村図書のものが一番優れていると評価しました。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見がないようでございますので採決をいたします。

最初に、開隆堂出版を推薦される方。

—挙手3名—

(教育長)

光村図書。

—挙手2名—

(教育長)

採決の結果は、開隆堂出版が3票、光村図書が2票ということで、美術は開隆堂出版に決定をいたしました。

続きまして、保健体育に移ります。

保健体育は4社でございますが、御意見を伺いたいと思います。どなたかございませんか。

(西本委員)

4社の教科書のうち、私は東京書籍の教科書を選びました。

まず他社と比べまして、全体的に図表や挿絵が多く感じました。

これは、視覚的に情報を見てわかりやすく感じられるのではないのでしょうか。

また、1単位時間の内容が見開きで構成されておりまして、先生からの指導もしやすいとともに生徒さんにとっても学習の流れが理解しやすく良

いのではないかなと感じました。

全体的に使われている色合いも明るく、字体をセンテンスによって分けているので、見やすく理解が深まるのではないかなと感じました。

また、巻末にはスキルブックがついておりまして、命や健康を守るために必要なスキルを、わかりやすくまとめられておりました。

授業だけではなくって、実生活の中でも、こちらは大変ためになる巻末の資料ではないかなと思いました。

これがまたいつでも確認することができるかなと思いましたので、家庭に帰りまして一緒に家族で見て、学びが深められるのではないかなと思いました。

その理由で東京書籍がいいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんですか。

(河原委員)

体育や保健は、日常生活のなかで、テレビでスポーツ観戦したり、病気になったら薬を飲んだりする程度には誰もが触れている分野です。

そうすると、逆に知ったつもりになってしまい深く考えなくなるテーマでもあります。

しかし、正しい運動や健康の知識なしには、かえって危険をもたらす恐れもあり、その意味で、保健体育は、心身の健康維持や健全なスポーツ・文化の発展に欠かせない科目だと言えます。

保健体育には、体育や保健について、日常的な理解から一歩踏み込んで、生徒に「正しい知識」の意識を触発し、自分事として考察を促す仕掛けが必要になるのではないかと思います。そのような観点から各社の教科書を比較してみました。

G a k k e n のものは、単元に入る手前、見開き左上に、「ウォームアップ課題の発見」という小さなコラムを配置し、まず日常生活のなかから疑問をとり出しています。

そこから、「学習の課題」に続き、その単元の学習のポイントが示されます。本文を読んだあとには、「エクササイズ 課題の解決」で、最初の「ウォームアップ課題の発見」に対する答えを整理できるようになっています。

最後に、「学びを生かす」で単元の知識を生か

した活動が示されています。単元の枠組みがしっかりしていて、学習への取組を丁寧に促すガイドの効果があると思いました。

東京書籍のものは、「学習課題」の問題提起で始まり、本文があり、途中で再度問いかけが挟まれ、最後に「活用する」で、単元の内容を生かした活動が示されています。単元内に学習内容を整理するところや最初の課題を受けた結論部分がなく、学習のガイドとしてはあまり効果的ではないように感じられました。

他には、図やイラスト等のビジュアル的要素の充実という点では大修館書店、紙面構成の見やすさでは大日本図書が優れていると思いました。

全体を通して、学習のガイドがしっかりしている点でG a k k e n のものももっとも優れていると思いました。

特に、G a k k e n の各単元見開き左上に配置された、「ウォームアップ課題の発見」は、日常生活から学習内容への移行を促す上手な仕掛けだと思います。

最初に申し上げたように、日常的な理解から一歩踏み込んで、生徒に「正しい知識」の意識を触発し、自分事として考察を促す仕掛けが、丁寧に作り込まれているという点で、私は、G a k k e n の教科書を推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見はありませんか。

(一同)

なし

(教育長)

意見等がないようでございますので、採決をいたします。

それではまず、東京書籍に賛成の方は挙手をお願いいたします。

—挙手4名—

(教育長)

ありがとうございました。

続いて、G a k k e n。

—挙手1名—

(教育長)

それでは、挙手の結果、東京書籍が4票、G a k k e nが1票ということで、東京書籍を採択することに決定をいたしました。

次に技術家庭の技術分野に移りたいと思います。御意見ございませんか。

(田中委員)

技術の教科書は3社から出版されています。

どの教科書でも、初めに3年間を見通したガイダンスがありますが、最も丁寧に示されていたのが東京書籍版だと感じました。

漫画や写真の資料を通して「技術の見方、考え方」や問題解決について非常にわかりやすく表されていました。

また、「材料と加工」「生物育成」「エネルギー変換」「情報」の各編の扉にも、その編で学ぶことや関係する見方考え方を挙げ、学習の方向性を示しています。

技術は、中学校になって初めて学ぶのですが、入学して間もない1年生にも、わかりやすく抵抗がないように思いました。

また、見開きで1時間の学習が設定してあります。

1目標、2始めの活動、3学習課題、4本文・図版、5活動、6まとめの活動。

この6つの項目で、レイアウトが統一されていて、生徒が学びやすく、教師側も指導しやすくなっていると思います。この点は、学校報告書でも評価として挙がっていました。

QRコードは見開きごとに設定されています。

コンテンツは実習に使用できる基礎的な技能の動画や道具の図鑑など、とても充実していると感じました。

生徒一人一人が必要に合わせて動画を見ることができ、技能の習得に生かすことが可能です。

また、思考ツールやシミュレーション機能によって、考えを整理したり深めたり、何度でも試行錯誤をすることができる点も優れていると思いました。

各編の終わりには「すごいぞ！技術」というコラムがあって、今日的な課題に取り組む開発者や生産者の言葉が、技術の匠として多数紹介されて

います。

学習意欲を高めるとともに将来への展望にも繋がるのが期待できます。

巻末にも様々な資料が添付されていました。

中でも「コンピュータの基本操作」「プログラミング手帳」は、生徒が主体的に取り組む際に大変参考になると思います。

特に「プログラミング手帳」では、様々なプログラミング言語が掲載され、生徒の興味関心が広がるものと思われます。

以上のことから、東京書籍版が良いと思います。

(教育長)

他に御意見ないでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

私は、開隆堂を推薦したいと思います。

章と単元の学習過程が明確に記載されていることとか、情報セキュリティと情報モラルについて詳しく掲載されていることは、東京書籍、開隆堂ともにその差はなく、どちらかなというふうに思ったんですが、開隆堂の写真の多さでありますとか、巻頭見開きのドラえもんを、今の時代に置き換えて、時代の進化を表すことで、生徒の興味関心を引く工夫をしているのではないかなという点を評価させていただきました。

部会では、ガイダンス学習の流れが把握しやすく指導しやすい工夫があること、学習の展開例示が学習の見通しを立てやすいこと、愛媛県の造船技術者が紹介されていることなどを評価しておりまして、以上のことから私は、開隆堂がいいかなというふうに思っています。

他に御意見等ありませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、採決をいたしたいと思います。東京書籍に賛成の方、挙手をお願いします。

—挙手 4 票—

(教育長)

4 票です。開隆堂 1 票ということで、東京書籍 4 票で、東京書籍を採択することに決定をいたしました。

続きまして、技術家庭の家庭分野について移りたいと思います。委員さんの御意見を伺いたいと思います。

(河原委員)

家庭分野の学びは、家族、地域、生活に直接的にかかわる事柄を主題としています。

それらは、誰もが生きている限り関わり続けるものですから、大切な学びです。

その意味で、どの科目もそうではありますが、特に、得意不得意の差を生まないように配慮しなければならぬ科目のように思います。

学習指導要領においても、生活の自立に必要な基礎的な理解と技能を修得すること、生活の中に問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善すること等が目標として掲げられています。

こういった観点から、各社の教科書を評価してみました。

教育図書のもは、カラー写真やイラストが非常に多く、文字量が控えめな印象です。

調理実習のところも、1 料理に 2 ページを割り、多くの写真で調理手順を追えるようになっています。

各工程が縦方向に並べられているため、視線の移動が少なく見やすく工夫されています。

全体的に文章による説明よりも、直感的な理解を重視していると思われま。

各単元は、冒頭の「めあて」で、学習の目標を明確化し、「キーワード」で重要語句を示してから本文に入ります。

本文に入ると、すぐに「見つめてみよう」で考察が促されます。

そこから、本文を経て最後に「ふり返る」で学習内容のチェックがあります。

開隆堂のもは、逆に写真やイラストのサイズを抑えて文章量を多くしている印象です。

「参考」というコラムもあり、そこにも文章による説明があります。調理実習のところは 1 料理につき 1 ページのみで写真も少なく調理手順の細

かさに欠けます。各単元の構成は、最初に問いが投げかけられてから本文に入ります。特に学習のまとめに相当するものは見当たりません。

最初に申し上げたように、家庭分野の学びは、特に得意不得意の差をなるべく生まないように配慮する必要があると思います。その意味で、文章による説明よりも写真やイラストを多用した教育図書のもは直感的に理解しやすく、一歩リードしているように思いました。技能の習得についても、調理実習ところがよい例ですが、紙面を工夫してわかりやすく丁寧に説明し、確実に実践できるように配慮している点で優れていると思しました。

以上のことから、私は、家庭分野の教科書として、教育図書のもを推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見等ございませんか。

(田中委員)

家庭科では、教科書の内容構成が、東京書籍版だけ違う形になっておりました。

家庭分野は 3 社あるんですが、この東京書籍だけ異なっております。

他の教科書は、家族・家庭生活の内容から学ぶ配列になっているのですけれども、東京書籍版は食生活から学ぶ構成になっています。

自立から共生に向かうことを意図した配列だと思します。

生徒の発達段階とか興味関心に沿っている点が評価できると思します。

また、初めに教科書の構成と使い方が丁寧に解説されています。

問題を解決する場面の課題を決め、計画を立てて実践し、というプロセスが非常にわかりやすく、さらに、学習の中で活用ができそうな、思考ツールの説明などもありました。

家庭生活のガイダンスのページでは、家庭分野の「協力・協働」や「健康・快適・安全」な四つの見方・考え方について、2 ページにわたって例を挙げながら説明されています。

学習においてだけでなく、日頃の生活の中で、この見方考え方を生かして、生活をより良くすることの大切さも述べられています。大切な点だと

思いました。

東京書籍版は使われているフォントやイラストが見やすく、とてもわかりやすい紙面構成になっている印象を受けました。

調理のところで、1日に必要な食品の量を実物大の写真で示しているページがあるのですが、身近な食品が挙げられており、生活の中で生かすことができると思いました。

手のひらに野菜を乗せた写真もあって、「手ばかり」として親しみやすく、すぐに活用できると思いました。

調理実習の例が多いことも、東京書籍版の特徴だと思います。

レシピ本のように、たくさんの料理の写真と作り方が載せられ、作ってみたいという意欲が高まると思います。

どのページにもQRコードが付けられ、写真付きで手順が説明されていたり、一部は動画で作り方が示されていたりします。

家庭での実践に役立ち、生活に生かされることと思えます。

以上のことから、東京書籍版が良いと考えます。

(教育長)

ありがとうございました。
他に御意見はありませんか。

(緒方委員)

私は、開隆堂の教科書に注目をしたいと思いません。

開隆堂の教科書は、授業の内容を学習の目標、導入課題、本文と展開し、最終章で学習のまとめで自己評価をする構成です。

その学習題材は、中学生が自分事として捉えられるものが選ばれています。

また、学んだことの実生活への生かし方も明示されており、生徒は授業で学んだことを、実践に結びつけることができます。

SDGs、防災、ヤングケアラー、里親、トランスジェンダー、キャッシュレス決済など、今日的課題も多く取り上げられており、これから多くの課題に突き当たるであろう中学生に、ぜひ知っておいてもらいたい内容が充実しています。

さらに、紙面は実物大の写真や見開き2ページ

に渡って使うなど、多く掲げられておりますカラー写真も食品等が、鮮明にわかります。

そして豆知識やQ&Aも、中学生の学びの意欲を刺激するものだと思います。

地域関連の内容については、大洲市立肱川中学校の取組や観光客にも人気のある郷土料理の鯛飯が取り上げられ、生徒たちは親近感を持つと思えます。

以上のことから、私は家庭科の教科書は、開隆堂が良いと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

その他御意見ないですか。それぞれ3つの会社の推薦の声がありましたが、ないですか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見は出尽くしたようでございますので、採決をしたいと思います。

まず最初に、東京書籍に賛成の方は挙手をお願いいたします。

—挙手1名—

(教育長)

教育図書。

—挙手1名—

(教育長)

開隆堂出版。

—挙手3名—

(教育長)

開隆堂出版が3票、東京書籍が1票、教育図書が1票ということで、家庭分野につきましては、開隆堂出版を採択すると決定いたしました。

それでは、続きまして外国語英語に移りたいと思います。6社ございますが、各委員さん方の御意見を伺いたいと思います。

(河原委員)

英語の教科書を評価するにあたり、学習指導要領の目標の項を参照しました。

外国語の音声や語彙、表現、文法等を理解し、聞く、読む、話す、書くことに活用できること、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で表現したり伝え合ったりできること等が挙げられています。

こういった目標を踏まえ、学習しやすさを意識しながら、各社の教科書を比較・検討してみました。

全体的に、章構成が複雑になっているものが多い印象でした。一章のなかに色々なセクションやコーナーが含まれ、章と章の間に特設ページが設けられているものや、もっと多彩なものでは、章という単位そのもの、章と特設ページの区別を認識しにくいものもありました。

学習過程というのは、一章では何を学び、二章では何を学びといった分節が明確で、かつ、その連続性を学習者自身が自覚できることが、学習意欲を保つうえでとても大切なことだと思います。

そういった観点で見ると、光村図書のものと啓林館のものが、構成が比較的シンプルで、各章の学習課題が明確であるように思いました。逆に開隆堂のものは複雑で学習しにくいように感じました。

また、英語を学ぶうえで大切なことは学習指導要領の目標にも含まれていますが、語彙と文法の理解だと思います。

これを無視してリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングは成り立ちません。

語彙学習の観点で見えていきますと、全社とも、読み物内の新規単語が欄外にピックアップされ、学習の利便性が図られていました。

巻末には、教科書に登場した単語のリストが掲載されていましたが、付加情報が少しずつ異なっていました。

特徴的なものを挙げると、教育出版、啓林館、三省堂のものにはカテゴリー別の単語集が、開隆堂のものには熟語リストが、光村出版のものには英単語の接頭語・接尾語の解説が掲載されていました。

特に、接頭語・接尾語の解説は単純な語彙の知識だけでなく、未知の英単語の意味を理解したり、語彙の知識を体系的に拡大したりするうえ

で、非常に役立つものであるため、これは素晴らしいと思いました。

文法学習の観点に目を向けますと、全社とも、節ごとに基本構文が、本文欄外に提示され学習しやすくなっていました。

少しずつ違いがあり、教育出版、開隆堂、三省堂のものには解説がなく、啓林館、光村図書、東京書籍のものには解説が付されていました。

特に光村図書のものは、解説が詳しい上に例文も複数挙げられており、理解しやすいと思いました。

また、全社とも、章末には本文の文法事項のまとめが掲載され、再確認できるようになっていました。

特に、啓林館のものは2ページにわたって参考書に近い詳しい解説がついており、優れていると思いました。

文法学習では単に文法事項の解説だけでなく、使ってみる演習もまた重要です。そういった観点でも各社のものを比較してみました。

光村図書、啓林館、教育出版のものには、節ごとに、本文で用いられた文法事項についての演習がついていました。

特に、光村図書と啓林館のものは、Listen、Speak、Writeの表示とともに、3系統の演習問題が用意され、新たに登場してきた文法事項をすぐに習得させようという意図を感じました。

以上、いくつかの観点で比較してきましたが、特に、教科書の構成がシンプルで、目標が明確で学習しやすく、語彙や文法の学習に対してのフォローも手厚いところから、私は光村図書のものを推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見はございませんか。

(西本委員)

私は6社を比較しまして、東京書籍の教科書が良いと感じました。

まず構成を比べてみました。

知識や技能の習得と活用を繰り返しながら、思考力や判断力、表現力などの意見育成を目指す構成となっておりましたので、少しずつステップアップすることによって、見通しを持ちながら学び

を進めていけるのが良い点ではないかなと感じました。

また、スモールステップで学習活動を積み上げていくことができる仕様になっているので、単元末までに、確かな英語力が養われる流れになっていて、英語の苦手な生徒にも理解が深まっていくのではないかなと感じました。

また、複数回視点を変えて、読解のポイントを絞って文を読む、ラウンドリーディングの仕組みが取り入れられていることで、何度も読んで繰り返して学習することができて、適切にまた効率的に英文を読む力というものも身に付くのではないかなと、そういう工夫が感じられました。

また、デジタル教科書の中には、文章中の単語が、空欄となって現れるマスク機能というものがついていて、単に英文を読むだけではなく、覚える力も同時に身につけられるような工夫が見られるのではないかなと思いました。

以上の理由で、私は東京書籍が良いと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見はございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、意見等ないようでございますので、採決をしたいと思います。

最初に、東京書籍に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

—挙手 4 名—

(教育長)

光村図書。

—挙手 1 名—

(教育長)

それでは、採決の結果、東京書籍が 4 票、光村図書が 1 票ということで、英語は東京書籍を採択することに決定をいたしました。

それでは最後の科目ですが、道徳に移りたいと思います。

道徳は 7 社ございますが、それぞれ委員さんから御意見を伺いたいと思います。いかがですか。

(田中委員)

道徳はどの教科書も、命やいじめ、情報モラルやSDGsなど現代的な課題、必要な課題に関する教材が充実されていて、関連するいくつかの教材を組み合わせた、ユニットとして重点的に指導する工夫が行われていました。

またQRコンテンツも充実されており、音声朗読やスライドショー、デジタルノートなど、ICTを活用して子どもの特性に合わせた学習が進められるようになっています。

その中でも、私は教材の充実という観点から、東京書籍版が良いのではないかと考えます。

まず、東京書籍版は、様々な資料が掲載されていることです。

「定番」と言われる昔から定評のある教材が、今回新たに増やされていますし、新しく「NHK for School」の映像番組を文章化して、紙面でも動画でも利用できるようにしています。

文章を読むことが難しい生徒も、抵抗なく授業に取り組めると思います。

また、同じ登場人物が 3 年間成長していく物語が新しく掲載されていました。

自分たちと同じ学年であるので、登場人物と共感できる良い教材だと思います。ともに成長するという気持ちにもなるのではと思いました。

さらに、読み物教材だけでなく、イラストや漫画の教材、写真だけで構成されたものも用意されていました。

読み物教材は、どうしてもその文章を読むのに時間がかかります。

考える時間、話し合う時間を確保するために、教材の文章の見直しが行われています。

定番教材に、2 通の手紙というものがあり、ほとんどの教科書で採用されていますが、東京書籍版は前後を省き、少し短くして掲載されていました。

この東京書籍版では、こういった点も配慮がなされているのだと実感しました。

またその教材だけでなく、「プラス」というコラムも充実されています。

アンガーマネジメントやアンコンシャスバイアスなどのソーシャルスキルについてのコラムは、対人関係を良くしたり、自己肯定感を高めたりすることに繋がります。

「探求の対話 p4c」これは安心して発言できるという取り組みなのですが、それや役割演技なども設定され、課題について考えを深めたり広げたりすることができると思います。

和菓子や愛媛ゆかりのお笑い芸人など、親しみやすいものも取り入れられています。

気軽に読めるコラムという部分であるからこそ、生徒の心に届くものも大きいのではないかと思います。

以上のことから、私は東京書籍版が良いと思いました。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見ございませんか。

(西本委員)

私は、G a k k e n の教科書が良いと感じました。

学研の教科書は、最重点テーマを「命の教育」と示されておりまして、3年間を通して命の尊さについて、様々な視点から考える工夫がされておりました。

構成では、教材の後に考えを深める特設ページが設けられていて、話し合い活動や役割演技などを通して、より考えを深められるような作りになっておりました。

また随所で美しい写真がたくさん使われておりまして、題材の深さに苦悩したとき、子どもたちが綺麗な写真を見て、ほっと一息つけるような、そんなページになっているのではないかなと推察しました。

またユニット学習によって、SDG s や多様性、キャリア教育など、現代に生きる生徒たちにとって大きくも、また大切なテーマについて主体的に学べる紙面構成となっているのも良い点だなと思いました。

また愛媛だけではなくて、全国各地の伝統文化に触れられていて、継承する大切さについて学ぶことができ、伝統を尊重する心が養われる期待が持てるのではないかなと感じました。

全体的に命の尊さという壮大なテーマを主軸にされておりますが、今日、たくさんの情報に囲まれて生きる生徒たちの心の変化に寄り添って、学び続けることができるというのが、私がG a k k e n を選んだ理由です。

(教育長)

ありがとうございました。

他に御意見はないでしょうか。

(緒方委員)

道徳の7社の教科書がありましたが、多くの教科書会社が、先ほどからも出ておりますように、命、情報モラル、SDG s 等で関連のユニット学習を設定しており、現代的な課題を考えることができるものになっています。

これらの現代的な課題は、人の幸・不幸を大きく左右するものでもあるので、道徳の授業を通して考え、実践していく力を身につけさせたいと思います。

また、国際社会を生きる子どもたちに、世界に通用する人権に対する知識感覚を身につけさせたいという編集の意図を持った教科書もあり、道徳教育の大切さを再認識させられました。

さて、道徳の授業は、基本学級担任が行いますが、最近は学年部の教師が分担して行うところもあると聞きます。

私は、子どもたちに関わる教師誰もが道徳の授業を行うことが望ましいと考えますが、教育出版の教科書は、教材ごとに学びの道しるべで、道徳的な価値の理解を図るための問いの例が示されており、これはどの教師が道徳の授業をしても、その教材の道徳的価値についての考えを、ぶれずに深めることができると思います。

これは生徒の側に立てば、授業の流れがシンプルでわかりやすいものになるのではないかと考えます。

またユニットだけでなく、コラムも充実しており、教材を自分事として考えやすい構成になっているという報告もありました。

また、教材に写真、動画、図版、ワークシートなど、デジタルコンテンツをリンクさせていることは、生徒の主体的な学びに資するだけでなく、読解に陥らないためにも有効であると思われる。

また、愛媛に関する教材では、松山市出身の自然写真家松本紀生さんの「オーロラの向こうに」が1年生、「変わりゆく地球」として3年生のコラムで取り上げられています。

松本さんに関しては、NHKで放映されたり、市内の学校で実際の画像を得て講演をしてくれたりしたこともあり、生徒にとって身近に感じる方ではないかと思います。

また、新居浜市出身の画家石村嘉成さんは、「僕の応援歌」で、1年生で取り上げられています。

石村さんの絵は、最近県立美術館での展示が大きな反響を呼び、生徒たちの身の回りでも石村さんの絵を見る機会が多くなっています。

以上のことから、私は教育出版の教科書が良いと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

他に意見等はありませんか。

(河原委員)

道徳科は、他の科目で扱う知識のように、一つの問題に対して一つの正解があるという分野ではない点で、他の教科と大きく異なるところがあると思います。単純な正解がない分、自他様々な視点から深く物事を考察したうえで一定の見解を見いだしていく難しい分野のように思います。

他方、生徒が学習に取り組む以上は、他の科目のように、それなりに情報が整理され、何を学んでいるかの意味や目的がはっきりしていること、学習のプロセスがあまり複雑ではないことも必要ではないかと思います。

こういったことを念頭におきながら、各社の教科書を比較してみました。

まず共通する点として、どの教科書も1学年分で、40個前後のトピックを掲載していることが挙げられます。

非常にバリエーションに富んでいて、これをざっと読んでしまうと、単なるエッセイ、物語、資料を集めた読み物集に過ぎなくなってしまう。

問題意識を持って読めるような工夫が、道徳の教科書としては必要だと思います。

光村図書のものは、全トピックが九つの大テ

マに分類されており、テーマ順に学んでいくように構成されていました。

九つのテーマを通して、おおむね、まず自分、次に他者、人間社会、最後に自分に戻るという順序で道徳的認識を深めていく構成となっており、学習しやすいと思いました。日本教科書も同様でしたが、テーマ分類がやや抽象的に感じました。

次に、自他さまざまな視点から深く考察したうえで、一定の見解を見いだすという点でも、各社の教科書を比較してみました。

どの社のものも、各トピックの末尾に考察を深めるための学習のガイドが掲載されていました。

光村図書のものは丁寧で、「考えよう」で文章内の登場人物の心情を押し量り、「見方を変えて」で俯瞰的な視点からの検討を行い、最後に、「つなげよう」で一般的な結論を導くという段階的な手順が設けられていました。

教育出版のものも同様で、「学びの道しるべ」に三つの問いかけが用意され、文章内の登場人物の心情、自分自身の感じ方を順に検討し、最後に一般的な結論を導くように構成されていました。

さらに、教育出版のものは、各トピック冒頭に問いかけが提示されており、問題意識を持ちながら本文に入れるように工夫されていました。

G a k k e nのものは、トピックとは別に「深めよう」、「クローズアップ」というページが間にたくさん挿入されており、それによって各トピックでの学びからさらに考察を深めようという工夫がなされていました。

なお日本文教出版のものは、各トピックでの考察結果を記入するための「道徳ノート」が別冊で付加されていました。

最後に、学校が舞台となることの多い、いじめ問題についても確認してみました。

どの社のものも取り上げていましたが、特に、教育出版、日本文教出版のものが多くのページを割き、充実している印象でした。

以上、全社比較した結果として、光村図書、教育出版、G a k k e nのものがよくできていると思いましたが、学習のしやすさで勝る点で光村のものが一番よいと思いました。

私は、道徳の教科書としては光村図書のものを推薦したいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。

それでは全ての方、御意見を述べられてございますので、採決をしたいと思えます。

まず、東京書籍を推薦される方。

—挙手 1 名—

(教育長)

教育出版を推薦される方。

—挙手 2 名—

(教育長)

光村図書。

—挙手 1 名—

(教育長)

日本文教出版。

—挙手 0 名—

(教育長)

G a k k e n。

—挙手 1 名—

(教育長)

採決の結果、教育出版が 2 票、東京書籍が 1 票、光村図書が 1 票、G a k k e n が 1 票となり、ただいま読み上げました 4 社、いずれも過半数を超える得票数とはなりませんので、無記名による投票を行いたいと思えます。

事務局は投票用紙の配布をお願いします。

それでは、配布されました投票用紙で、先ほど得票のあった 4 社、東京書籍、教育出版、光村図書、G a k k e n、この中で、まず採択したい教科書の出版社 2 社に、丸印をご記入いただければと思えます。

よろしく願いいたします。

(投票用紙に記入)

(教育長)

記入が終わった方は、用紙を裏返して机の上に

置いてください。

(投票用紙を回収)

(教育長)

それでは立会人に、田中委員さんお願いをいたします。

(集計)

(教育長)

集計結果を報告いたします。

東京書籍 2 票、教育出版 4 票、光村図書 2 票、G a k k e n 2 票となりました。

したがいまして、教育出版以外の東京書籍、光村、G a k k e n、この 3 社から 1 社を選ぶ 3 回目の投票を行いたいと思えます。

東京書籍、光村、G a k k e n、このいずれかに 1 票をお願いいたします。

(投票用紙に記入)

(教育長)

記入が終わりましたら、用紙を裏返して机の上タラと思えます。

(投票用紙を回収)

(教育長)

それでは開票いたします。立会人に河原委員さんお願いいたします。

(集計)

(教育長)

集計結果を報告いたします。

東京書籍 2 票、光村図書 2 票、学研 1 票となりましたので、東京書籍と光村図書で、どちらか 1 社の選択をお願いしたいと思います。

配られました用紙に記入の上、裏返して机の上に置いてください。

(投票用紙に記入)

(投票用紙を回収)

(教育長)

立会人に、緒方委員さんお願いいたします。

(集計)

(教育長)

集計結果を報告いたします。

東京書籍 2 票、光村図書 3 票でございました。
最終に、1 番最初の投票で選ばれておりました、
教育出版と光村図書、この 2 社で最終の投票を行
いたいと思います。

(投票用紙に記入)

(教育長)

記入が終わった方は、用紙を裏返して、机の上
に置いていただけたらと思います。

(投票用紙を回収)

(教育長)

立会は、西本委員さんお願いします。

(集計)

(教育長)

集計結果を報告いたします。

教育出版が 4 票、光村図書が 1 票、したがいま
して、道徳科目につきましては、教育出版を採択
することに決定をいたしました。

それでは、続きまして、日程第 4 報告第 21 号
「松山市青少年育成支援委員の退任及び委嘱につ
いて」を議題といたします。

失礼いたしました。

日程第 3 報告第 20 号「公民館運営審議会委員
の退任及び委嘱について」を議題といたします。

毛利地域学習振興課長から説明を求めます。

(毛利課長)

地域学習振興課です。

よろしく申し上げます。

お手元の資料は 7 ページ、8 ページになりま
す。

報告第 20 号「公民館運営審議会委員の退任及び

委嘱について」御説明します。

公民館運営審議会委員は、社会教育法第 30 条及
び松山市公民館条例第 3 条と、松山市公民館運営
内規により、教育委員会が委嘱することとなっ
ております。

今回、北条公民館において委嘱していた委員 2
名が退任し、新たに 2 名の委員が就任するもの
です。

退任される方は、各種団体の役員改選により 8
月 13 日をもって、退任の辞表が提出されました。

また、就任される方々は、先ほどの退任者の後
任であり、任期は、令和 6 年 8 月 14 日から令和 7
年 3 月 31 日までです。

今回、急施を要するため、教育長の専決により
処理しましたので、御報告申し上げます。

以上で説明を終わります。

よろしく申し上げます。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関し、何か御意見等ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、報告第 20 号「公民館運営審議会委員
の退任及び委嘱について」御異議ございませ
んか。

(一同)

異議なし

(教育長)

御異議なしと認めます。

次に、日程第 4 報告第 21 号「松山市青少年育
成支援委員の退任及び委嘱について」を議題と
いたします。

池田教育支援センター事務所長から説明を求め
ます。

(池田所長)

教育支援センター事務所の池田です。

よろしく申し上げます。

報告第 21 号「松山市青少年育成支援委員の退任

及び委嘱について」御説明いたします。

お手元の資料9ページをお願いします。

青少年の非行防止、及び健全育成の推進を目的に、市内各地域で巡回活動などを行う、松山市青少年育成支援委員は、松山市教育支援センター条例施行規則第4条の規定により、教育委員会が委嘱しています。

今回、市内商店等の支援委員株式会社ファミリーマート松山北営業所和田厚氏と、校区一般の支援委員湯山校区、間浩高氏が退任され、それぞれ退任者の後任として、大門鉄平氏、池田雄弥氏を新たに委嘱したことについて、松山市教育委員会事務委任規則第2条第2項の規定により、教育長の専決により処理しましたので、御報告申し上げます。

なお、任期は、令和7年3月31日までです。

以上で、説明を終わります。

よろしくをお願いします。

(教育長)

以上で説明は終わりました。

この件に関し、何か御意見等ございませんでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、報告第21号「松山市青少年育成支援委員の退任及び委嘱について」御異議ございませんか。

(一同)

異議なし

(教育長)

御異議なしと認めます。

次に、日程第5 説明事項「令和6年度 全国学力・学習状況調査 松山市立小中学校の調査結果」を議題といたします。

井上学校教育課長から説明を求めます。

(井上課長)

学校教育課の井上です。

よろしくお願ひいたします。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、御説明いたします。

資料11ページをご覧ください。

本調査の概要ですが、今年度は、小学校で国語・算数、中学校で国語・数学が実施されました。

続いて、12ページをご覧ください。

教科に関する調査結果は、全国の平均正答率と比較したところ、松山市の平均正答率は、小中学校ともに全国平均とほぼ同じ状況でした。

続いて、13ページから16ページについて説明します。

こちらは、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査における本市の状況について示したものです。

13ページから14ページは、全国の平均値と比較して本市の良好な状況を示しています。

良好な質問は、小学校の設問項目5、中学校の設問項目5の「普段（月曜から金曜）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問です。

この質問に「2時間より少ない」と回答した児童生徒の割合は、小学校では55%、中学校では53.5%で、小中学校とも全国平均を上回りました。

また、小学校の設問項目(7)、中学校の設問項目(7)の「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問でも、小中学校とも全国平均を3ポイント以上上回り、良好な結果が得られていることから、家庭でルールを設け、守る習慣が身に付いている様子が見られました。

今後も家庭と連携しながら、ICT機器の適切な使い方の意識を高め、望ましい生活習慣の確立に努めていきたいと思っております。

次に、全国の平均値と比較して課題が見られる質問です。14ページから16ページをご覧ください。

教科に関する調査における算数や数学の平均正答率は、全国をやや上回っているものの、小学校の設問項目(56)、中学校の設問項目(56)の「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生

徒の割合がマイナス3ポイント以上、全国平均を下回りました。

図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に検討して、よりよい解決の仕方を求めて粘り強く考えたり、数学の良さに気付き、学んだことを実生活で活用したりする力の育成に努める必要があると考えています。

また、これまでの授業改善により、考えを交流する場面自体は広がっているものの、小学校の設問項目(30)、中学校の設問項目(30)の「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が全国平均を下回り、児童生徒の学習に対する興味・関心や主体性が伸び悩んでいることが考えられます。

今後も引き続き、交流し考える学習の中で、児童生徒自身が学びを調整し、他者と協働しながら主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図りたいと思います。

最後に17ページをご覧ください。

本市の目標及び指標についてです。

本市の指標として「1日1時間以上の家庭学習の時間を確保している割合」を76%以上としており、小学校では64.1%と本市の指標を下回っていました。

全国と比較した場合には、大きく上回る状況がありますが、数値としては、年々減少する傾向が見られます。

中学校では63.1%と、本市の指標を大きく下回っていましたが、昨年度と比較すると増加していることから、家庭学習の習慣化が図られている様子が見られます。

最後に18ページをご覧ください。

考察と今後の方向性を示しています。

今後も、児童生徒の自主性を育む方針は継続しながら、授業と家庭学習の一体的な充実に努めていきたいと思っています。

なお、これらの結果につきましては、

本定例会後、ホームページにて結果を公表しますが、学校名を明らかにした結果については、例年と同様に公表しないこととします。

以上で説明を終わります。

(教育長)

以上で、説明は終わりました。

この件について何か御意見御質問等ございましたでしょうか。

(一同)

なし

(教育長)

特に御意見等ないようでございますので、本日予定の日程は、以上となります。

委員の皆様方から、何かこの際でございますが、御意見や御質問等ございませんか。

(一同)

なし

(教育長)

それでは、ないようでございますので、以上をもちまして、本日予定の日程は終了いたしました。

これをもちまして、令和6年第8回定例会を開会いたします。

御苦労さまでございました。

(野口次長)

御起立をお願いします。

一同礼。